

令和3年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

令和3年度（令和2年7月1日～令和3年6月30日）実績報告より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和3年6月30日現在）	24種類	59種類	83種類
② 実施医療機関数（令和3年6月30日現在）	141施設※1	211施設※1	267施設※2
③ 全患者数	4918人	925人	5843人
④ 総金額（⑤+⑥）	約92.6億円	約10.3億円	約102.9億円
⑤ 保険外併用療養費の総額（保険診療分）	約34.1億円	約6.9億円	約41.0億円
⑥ 先進医療費用の総額	約58.4億円	約3.5億円	約61.9億円
⑦ 全医療費のうち先進医療分の割合（⑥／④）	63.1%	33.7%	60.2%

※1 1施設で複数の先進医療技術を実施している場合でも、1施設として計上している。

※2 1施設で第2項先進医療と第3項先進医療の両方を実施している場合でも、1施設として計上している。

令和3年6月30日時点で実施されていた先進医療の実績報告について

令和3年度（令和2年7月1日～令和3年6月30日）実績報告等より

	先進医療A	先進医療B	計
① 先進医療技術数（令和2年6月30日現在）	22種類	61種類	83種類
② 新規承認技術数	3種類	10種類	13種類
③ 保険収載技術数	0種類	0種類	0種類
④ 実施取り下げ技術数	-	12種類	12種類
⑤ 削除技術数	1種類	-	1種類
⑥ 先進医療技術数（令和3年6月30日現在）	24種類	59種類	83種類
⑦ 総括報告書受理数	-	10種類	10種類

< 過去5年間の実績 >

	実績報告 対象期間	技術数	実施医療 機関数	全患者数	総金額	保険外併用療養 費の総額 (保険診療分)	先進医療及び 旧高度先進医 療の総額	全医療費のうち先進 医療及び旧高度先 進医療分の割合
平成29年6月30日時点で実施されて いた先進医療の実績	H28.7.1～H29.6.30 (12カ月)	102	885施設	32,984人	約278億円	約71億円	約207億円	74.6%
平成30年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※1	H29.7.1～H30.6.30 (12カ月)	92	936施設	28,539人	約285億円	約45億円	約240億円	84.3%
令和元年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	H30.7.1～R1.6.30 (12カ月)	88	1,184施設	39,178人	約352億円	約54億円	約298億円	84.6%
令和2年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績※2	R1.7.1～R2.6.30 (12カ月)	83	252施設	5,459人	約99億円	約37億円	約62億円	62.6%
令和3年6月30日時点で実施され ていた先進医療の実績	R2.7.1～R3.6.30 (12カ月)	83	267施設	5,843人	約103億円	約41億円	約62億円	60.2%

※1 平成30年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

※2 令和2年度診療報酬改定の際、一部の技術が保険導入又は廃止されたことに留意する必要がある。

【先進医療A】
令和3年6月30日時点における先進医療に係る費用
 令和3年度実績報告(令和2年7月1日～令和3年6月30日)

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
1	1	高周波切除器を用いた子宮筋症核出術	平17.10.1	89,853,166	31,590,006	10.2	105	4
2	2	陽子線治療	平13.7.1	4,152,982,700	3,405,221,700	15.7	1,285	18
3	3	神経変性疾患の遺伝子診断	平15.9.1	1,293,958	50,100	7.7	3	1
4	4	重粒子線治療	平15.11.1	2,321,286,418	2,176,454,000	5.2	683	6
5	5	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	平16.11.1	966,456,244	8,683,854	47.3	226	10
6	6	家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	平16.12.1	778,290	180,000	-	6	1
7	7	腹腔鏡下膀胱尿管逆流防止術	平16.12.1	11,873,790	2,589,720	13.5	10	2
8	8	末梢血単核球移植による血管再生治療	平17.6.1	-	-	-	0	-
9	9	自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法	平8.11.1	3,818,550	3,728,100	-	9	1
10	10	培養細胞によるライソゾーム病の診断	平20.7.1	-	-	-	0	-
11	11	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	平20.8.1	-	-	-	0	-
12	12	ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断(PCR法)	平26.1.1	194,528,821	17,107,987	4.0	614	25
13	13	細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断(PCR法)	平26.1.1	28,728,872	1,511,208	6.7	56	7
14	14	LDLアフェレシス療法	平27.4.1	5,612,834	914,953	14.8	8	5
15	15	多項目迅速ウイルスPCR法によるウイルス感染症の早期診断	平27.5.1	758,420,311	2,463,647	97.4	52	5
16	16	CYP2D6遺伝子多型検査	平27.9.1	655,344	649,234	0.5	2	2
17	17	MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	平28.2.1	345,120,911	144,748,633	2.6	1,338	26
18	18	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイルス検査	平30.1.1	-	-	-	0	-
19	19	腹腔鏡下スリーブ状胃切除術及び十二指腸空腸バイパス術	平30.3.1	14,203,937	7,228,895	13.3	10	3
20	20	血中TARC濃度の迅速測定	平30.4.1	2,709,862	178,929	23.3	3	1
21	22	細胞診検体を用いた遺伝子検査	令2.5.1	347,168,397	34,704,982	7.1	459	18
22	23	内視鏡的憩室隔壁切開術	令2.7.1	1,184,199	212,144	5.0	3	2
23	24	内視鏡的胃局所切除術	令2.9.1	3,935,552	1,060,000	9.6	5	2
24	25	流産検体を用いた染色体検査	令3.4.1	5,009,560	1,786,470	0.6	41	8
合 計				9,255,621,716	5,841,064,562		4,918	147

【先進医療B】
令和3年6月30日時点における先進医療に係る費用
 令和3年度実績報告(令和2年7月1日～令和3年6月30日)

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
1	1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	平22.5.1	-	-	-	0	-
2	3	ベムレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平24.1.1	-	-	-	0	-
3	5	NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん(診断時のステージがIV期であって、初回治療として計画された一連の治療後の完全奏功の判定から八週間以内の症例(当該期間内に他の治療を実施していないものに限る。))に限る。)	平25.3.1	-	-	-	0	-
4	6	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変(Child-Pugh分類による点数が七点以上のものであって、従来の治療法(肝移植を除く。))ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	平25.6.1	-	-	-	0	-
5	7	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	平25.8.1	-	-	-	0	-
6	8	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	平25.8.1	11,813,341	9,820,041	1.7	7	5
7	9	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	平26.1.1	-	-	-	0	-
8	12	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	平26.8.1	26,777,819	1,851,071	19.5	31	7
9	14	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラルシド腹腔内投与の併用療法 腹膜偽粘液腫(画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないものであって、放射線治療を行っていないものに限る。)	平26.11.1	-	-	-	0	-
10	15	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツズマブ静脈内投与の併用療法 切除が可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	平26.12.1	7,818,081	1,891,026	23.2	6	5
11	19	LDLアフェレシス療法 閉塞性動脈硬化症(薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類ⅡB度以上のものに限る。)	平27.11.1	5,489,035	3,253,725	11.3	3	1
12	20	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあつては連続した三分の一顎程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあつては連続した三分の一顎程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあつては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	平28.1.1	-	-	-	0	-
13	21	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	平28.1.1	24,056,326	10,992,676	3.2	29	16
14	22	ハイバードライト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	平28.1.1	154,302	129,032	-	1	1
15	23	FOLFIRINOX療法 胆道がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものに限る。)	平28.2.1	6,325,540	2,741,280	-	5	4
16	24	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がⅠB期以上及びⅡB期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がⅠA2期以上及びⅡB期以下の腺がんであつて、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。)	平28.4.1	-	-	-	0	-

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
17	25	自家嗅粘膜移植による脊髄再生治療 胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国脊髄損傷協会によるAISがAである患者に係るものに限る。))を呈するものに限る。	平28.4.1	1,514,300	600,000	32.0	1	1
18	27	重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	平28.6.1	20,404,580	19,920,000	1.0	6	3
19	28	重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがI期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	平28.7.1	17,644,370	16,780,000	-	5	3
20	29	ゲムシタピン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	平28.10.1	19,268,530	17,140,000	8.4	5	2
21	30	ゲムシタピン静脈内投与、ナブパクリタキセル静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	平28.10.1	60,756,834	977,150	9.9	12	2
22	31	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衡灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	平28.11.1	-	-	-	0	-
23	32	ヒドロキシクロロキン療法 関節リウマチ(既存の合成抗リウマチ薬による治療でDAS28が二・六未満を達成できないものに限る。)	平28.11.1	-	-	-	0	-
24	33	水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	平28.12.1	43,215,411	5,572,217	35.1	8	4
25	34	トラスツマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 乳房外パジェット病(HER2が陽性であって、切除が困難な進行性のものであり、かつ、術後に再発したもの又は転移性のものに限る。)	平29.2.1	2,887,620	2,318,340	-	3	1
26	35	術後のカベシタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸腺がん(ステージがI期、II期又はIII期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平29.4.1	11,579,407	9,268,446	2.5	10	9
27	36	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、腹膜転移を伴うものに限る。)	平29.4.1	26,756,708	5,720,861	17.9	19	9
28	37	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	平29.4.1	5,622,035	1,054,900	4.7	7	3
29(1)	38(1)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【陽子線治療を実施する施設】	平29.6.1	24,617,774	17,600,000	15.2	11	4
29(2)	38(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。) 【外科的治療を実施する施設】	平29.6.1	-	-	-	0	-
30	40	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	平29.8.1	5,024,830	923,000	70.0	1	1
31	41	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	平29.10.1	4,132,690	983,530	15.8	4	2
32	42	ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺癌(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	平29.11.1	41,444,752	37,014,322	0.3	8	6
33	43	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	平30.2.1	217,396,762	713,909	1.5	488	30
34	44	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	平30.2.1	71,065,217	445,480	139.9	15	10
35	45	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	平30.6.1	21,100,440	18,943,000	12.0	6	4

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計(円)	先進医療総額(円)	平均入院期間(日)	年間実施件数(件)	実施医療機関数(機関数)
36	47	マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	平30.10.1	-	-	-	0	-
37	48	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	平31.2.1	753,070	753,070	-	5 (※1)	1
38	50	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	平31.3.1	6,412,998	6,077,088	-	8	2
39	51	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	平31.4.1	35,316,406	24,271,116	33.5	6	1
40	52	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	令1.7.1	196,690	0 (※2)	26.0	1	1
41	53	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	令1.8.1	7,141,681	4,819,050	8.0	5	1
42	54	ブローブ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	令1.11.1	-	-	-	0	-
43	55	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	令2.1.1	1,222,990	461,400	3.0	3	1
44	56	イマチニブ経口投与及びベムプロリズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.2.1	9,272,324	9,198,594	-	1	1
45	57	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限り。)	令2.2.1	2,404,044	1,253,730	4.7	3	1
46	58	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	令2.3.1	-	-	-	0	-
47	59	周術期デュルバルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	令2.3.1	14,383,440	12,192,670	-	2	2
48	60	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺癌、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	令2.4.1	205,944,320	55,440,000	9.4	105	2
49	61	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	令2.6.1	7,975,860	174,940	10.6	7	1
50	62	腎血管筋脂肪腫に対する腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるものに限る。)	平2.10.1	9,348,302	5,250,000	4.8	10	4
51	63	内視鏡的エタノール局所注入療法 脳神経内分泌腫瘍(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	令2.10.1	2,167,535	760,789	6.0	4	2
52	64	遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	令2.11.1	-	-	-	0	-
53	65	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	令2.12.1	48,115,285	35,579,755	1.7	61	14
54	66	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	令3.1.1	-	-	-	0	-
55	67	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	令3.2.1	252,192	11,272	-	3	1
56	68	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	令3.3.1	-	-	-	0	-
57	69	人工内耳植込術 一側性感音難聴(高度又は重度のものに限る。)	令3.4.1	-	-	-	0	-

整理番号	告示番号	技術名	適用年月日	総合計 (円)	先進医療総額 (円)	平均 入院期間 (日)	年間 実施件数 (件)	実施 医療機関数 (機関数)
58	70	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、テント上に位置するものに限る。)	令3.4.1	-	-	-	0	-
59	71	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(食道がん、胃がん、大腸がん、膵がん、胆道がん、肺がん、乳がん、卵巣がん若しくは子宮がん又は悪性黒色腫であって、化学療法又は放射線治療を行っていないものに限る。)	令3.5.1	5,446,790	4,964,820	0.8	10	3
合 計				1,033,220,631	347,862,300	/	925	171

※1 レシピエント登録のみの実施件数

※2 昨年度の実績として報告済み

【先進医療B】

令和3年6月30日時点における先進医療の

終了予定日、計画時患者数、登録症例数、協力医療機関数及び年間実施件数

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日(※1)	計画時患者数(※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(令和2年7月～令和3年6月までの実績)(再掲)
1	1	バクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵巣がん又は原発性腹膜がん	埼玉医科大学国際医療センター	平22.5.1	令3.5.31	654	655	40	-
2	3	ベトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたものと判断されるものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	平24.1.1	令4.12.31	800	804	49	-
3	5	NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん(診断時のステージがIV期であって、初回治療として計画された一連の治療後の完全奏功の判定から八週間以内の症例(当該期間内に他の治療を実施していないものに限る。))に限る。	千葉大学医学部附属病院	平25.3.1	令5.3.31	66	23	0	-
4	6	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変(Child-Pugh分類による点数が七点以上のもの)であって、従来の治療法(肝移植を除く。)ではその治療に係る効果が認められないものに限る。	山口大学医学部附属病院	平25.6.1	令4.3.31	34	3	0	-
5	7	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平25.8.1	令6.7.31	372	372	8	-
6	8	インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	国立がん研究センター東病院	平25.8.1	令8.3.18	38	38	17	7
7	9	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	平26.1.1	令7.5.25	225	187	12	-
8	12	全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法 全身性エリテマトーデス(初回の副腎皮質ホルモン治療を行っている者に係るものに限る。)	九州大学病院	平26.8.1	令6.3.31	150	36	10	31
9	14	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシン腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法 腹膜偽粘液腫(画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないものであって、放射線治療を行っていないものに限る。)	国立国際医療研究センター病院	平26.11.1	令6.7.31	75	75	0	-
10	15	術前のS-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びトラスツマブ静脈内投与の併用療法 切除可能な高度リンパ節転移を伴う胃がん(HER2が陽性のものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	平26.12.1	令9.3.25	130	46	48	6
11	19	LDLアフェレンス療法 閉塞性動脈硬化症(薬物療法に抵抗性を有するものであり、かつ、血行再建術及び血管内治療が困難なものであって、フォンタン分類ⅡB度以上のものに限る。)	公立大学法人 横浜市立大学附属病院	平27.11.1	令4.10.31	35	30	0	3
12	20	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨髄炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあっては連続した三分の一程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあっては連続した三分の一程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあっては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	名古屋大学医学部附属病院	平28.1.1	令5.4.22			0	-
13	21	テモゾロミド用量強化療法 膠芽腫(初発時の初期治療後に再発又は増悪したものに限る。)	杏林大学医学部附属病院	平28.1.1	令7.11.10	146	129	36	29
14	22	ハイバードライト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発異状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	国立大学法人富山大学附属病院	平28.1.1	令5.3.31	40	22	9	1
15	23	FOLFIRINOX療法 胆道がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものに限る。)	東京大学医学部附属病院	平28.2.1	令3.9.5	35	35	8	5
16	24	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がⅠB期以上及びⅡB期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がⅠA2期以上及びⅡB期以下の腺がん)であって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。	東京医科大学病院	平28.4.1	令6.9.30	100	101	12	-
17	25	自家嗅粘膜移植による骨髄再生治療 胸髄損傷(損傷後十二月以上経過してもなお下肢が完全な運動麻痺(米国骨髄損傷協会によるAISがAである患者に係るものに限る。))を呈するものに限る。	大阪大学医学部附属病院	平28.4.1	令4.3.31	10	7	0	1
18	27	重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	群馬大学医学部附属病院	平28.6.1	令10.6.1	130	36	5	6
19	28	重粒子線治療 非小細胞肺がん(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	九州国際重粒子線がん治療センター	平28.7.1	令9.6.30	150	49	5	5
20	29	ゲムシタピン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膀胱がん(遠隔転移を伴わず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 QST病院	平28.10.1	令9.9.30	82	41	3	5
21	30	ゲムシタピン静脈内投与、ナブ-バクリタキセル静脈内投与及びバクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う膵臓がん	東京大学医学部附属病院	平28.10.1	【導入相試験】 令2.11.30 【探索相試験】 令7.5.30		【導入相試験】6~18例 【探索相試験】35例	【導入相試験】12例 【探索相試験】15例	12
22	31	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均等灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	平28.11.1	令2.4.18		最大27症例	0	-
23	32	ヒドロキソクロキン療法 関節リウマチ(既存の合成抗リウマチ薬による治療でDAS28が二・六未満を達成できないものに限る。)	慶應義塾大学病院	平28.11.1	令3.8.31		HQ群 60例(全体120例)	0	-

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日(再掲)	終了予定日(※1)	計画時患者数(※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数(令和2年7月～令和3年6月までの実績)(再掲)
24	33	水素ガス吸入療法 心停止後症候群(院外における心停止後に院外又は救急外来において自己心拍が再開し、かつ、心原性心停止が推定されるものに限る。)	慶應義塾大学病院	平28.12.1	令6.12.1	360	73	19	8
25	34	トラスツズマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 乳房外パジェット病(HER2が陽性であって、切除が困難な進行性のもの)であり、かつ、術後に再発したもの又は転移性のものに限る。)	慶應義塾大学病院	平29.2.1	令3.9.1	13	13	0	3
26	35	術後のカベンタピン内服投与及びオキサリプラチン静脈内投与の併用療法 小腸癌がⅠ期、Ⅱ期又はⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	平29.4.1	令13.11.9	150	58	19	10
27	36	S-1内服投与並びにパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 膵臓がん(遠隔転移を伴わず、かつ、腹腔転移を伴うものに限る。)	関西医科大学附属病院	平29.4.1	令6.5.31	180	22	0	19
28	37	S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	名古屋大学医学部附属病院	平29.4.1	令4.7.1	50	53	0	7
29(1)	38	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)[陽子線治療を実施する施設]	国立がん研究センター東病院	平29.6.1	令11.12.19	290	126	20	11
29(2)	38(2)	陽子線治療 根治切除が可能な肝細胞がん(初発のものであり、単独で発生したものであって、その長径が三センチメートルを超え、かつ、十二センチメートル未満のものに限る。)[外科的治療を実施する施設]	国立がん研究センター東病院	平29.6.1	令11.12.19	290	126	20	-
30	40	シクロホスファミド静脈内投与及び自家末梢血幹細胞移植術の併用療法 全身性強皮症(ステロイド又は少なくとも一種類のステロイド以外の免疫抑制剤に抵抗性を有するものに限る。)	九州大学病院	平29.8.1	令4.7.31	12	10	0	1
31	41	自家骨髄単核球移植による下肢血管再生治療 バージャー病(従来の治療法に抵抗性を有するものであって、フォンタン分類Ⅲ度又はⅣ度のものに限る。)	京都府立医科大学附属病院	平29.10.1	令4.9.30	25	20	4	4
32	42	ニボルマブ静脈内投与及びドセタキセル静脈内投与の併用療法 進行再発非小細胞肺癌(ステージがⅢB期、ⅢC期若しくはⅣ期又は術後に再発したものであって、化学療法が行われたものに限る。)	横浜市立市民病院	平29.11.1	令3.6.30	350	131	22	8
33	43	術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん(ステージがⅢ期であって、肉眼による観察及び病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	国立研究開発法人国立がん研究センター中央病院	平30.2.1	令11.9.30	880	577	29	488
34	44	TRPV2阻害薬経口投与療法 心不全(十三歳以上の患者に係るものであって、筋ジストロフィーによるものに限る。)	国立病院機構 大阪刀根山医療センター	平30.2.1	令5.3.31	20	35	10	15
35	45	重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 GST病院	平30.6.1	令6.5.31	32	32	5	6
36	47	マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	大阪大学医学部附属病院	平30.10.1	令2.3.31	200	224	13	-
37	48	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院	平31.2.1	令11.6.30	42	0	6	5(※2)
38	50	反復経頭蓋磁気刺激療法 薬物療法に反応しない双極性障害の抑うつエピソード	国立精神・神経医療研究センター病院	平31.3.1	令7.3.31	96	10	2	8
39	51	自己軟骨細胞シートによる軟骨再生治療 変形性膝関節症(軟骨欠損を伴うものであって、高位脛骨骨切り術の適応となるものに限る。)	東海大学医学部付属病院	平31.4.1	令10.12.31	20	7	0	6
40	52	自家末梢血CD34陽性細胞移植による下肢血管再生療法 下肢閉塞性動脈硬化症(疼痛又は潰瘍を伴う重症虚血を呈するものであって、維持透析治療を行っているものに限る。)	医療法人沖繩徳洲会 湘南鎌倉総合病院	令1.7.1	令6.6.30	16~20	1	0	1
41	53	不可逆電気穿孔法 肝細胞がん(肝内における長径三センチメートル以下の腫瘍が三個以下又は長径五センチメートル以下の腫瘍が一個であって、肝切除術又はラジオ波焼灼療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が九点以下のものに限る。)	東京医科大学病院	令1.8.1	令9.7.23	45	8	0	5
42	54	プローブ型共焦点レーザー顕微鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	国立がん研究センター中央病院	令1.11.1	令4.5.17	250	11	1	-
43	55	ボツリヌス毒素の膀胱内局所注入療法 神経因性排尿筋過活動による膀胱機能障害(五歳以上十八歳未満の患者に係るものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令2.1.1	令6.3.31	9~12	3	1	3
44	56	イマチニブ経口投与及びベムプロシズマブ静脈内投与の併用療法 進行期悪性黒色腫(KIT遺伝子変異を有するものであって、従来の治療法に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令2.2.1	令7.10.31	22	1	0	1
45	57	偽腔拡大に対する血管内治療 大動脈解離(術後に偽腔が拡大したものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.2.1	令7.3.31	15	6	0	3
46	58	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	滋賀医科大学医学部附属病院	令2.3.1	令6.6.30	23	0	3	-
47	59	周術期デュラルマブ静脈内投与療法 肺尖部胸壁浸潤がん(化学放射線療法後のものであって、同側肺門リンパ節・縦隔リンパ節転移、同一肺葉内・同側の異なる肺葉内の肺内転移及び遠隔転移のないものに限る。)	国立がん研究センター東病院	令2.3.1	令12.8.31	84	3	19	2
48	60	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(非小細胞肺癌、乳がん、胃がん、大腸がん、膵がん又は胆道がんに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令2.4.1	令6.9.30	200	106	1	105

整理番号	告示番号	先進医療技術名	申請医療機関名	適用年月日 (再掲)	終了予定日 (※1)	計画時患者数 (※1)	登録症例数	協力医療機関数	年間実施件数 (令和2年7月～令和3年6月までの実績) (再掲)
49	61	肺動脈自律神経叢除神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.6.1	令6.12.31	20	7	0	7
50	62	腎血管脂肪腫に対する腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるものに限る。) 腎血管脂肪腫(結節性硬化症によるものに限る。)	九州大学病院	令2.10.1	令4.12.31	15	10	6	10
51	63	内視鏡的エタノール局所注入療法 膵神経内分泌腫瘍(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	岡山大学病院	令2.10.1	令5.3.31	25	4	5	4
52	64	遺伝子組換え活性型血液凝固第七因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。)	国立循環器病研究センター	令2.11.1	令8.3.31	300	0	13	-
53	65	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限る。)	岡山大学病院	令2.12.1	令5.3.31	250	61	24	61
54	66	抗腫瘍自己リンパ球移行療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	令3.1.1	令5.3.31	14	0	0	-
55	67	メトホルミン経口投与及びテモゾロミド経口投与の併用療法 膠芽腫(初発のものであって、テモゾロミド経口投与及び放射線治療の併用療法後のものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3.2.1	令7.1.31	22	3	1	3
56	68	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	令3.3.1	令7.2.28	24	1	1	-
57	69	人工内耳植込術 一側性感音難聴(高度又は重度のものに限る。)	国際医療福祉大学三田病院	令3.4.1	令6.9.30	38	0	0	-
58	70	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、テント上に位置するものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	令3.4.1	令8.3.31	10	0	0	-
59	71	マルチプレックス遺伝子パネル検査 進行再発固形がん(食道がん、胃がん、大腸がん、膵がん、胆道がん、肺がん、乳がん、卵巣がん若しくは子宮がん又は悪性黒色腫であって、化学療法又は放射線治療を行っていないものに限る。)	京都大学医学部附属病院	令3.5.1	令7.7.31	180	9	4	10

※1 終了予定日・計画時患者数は、医療機関より提出された実績報告(令和3年6月30日時点)から抽出したものであり、実施計画の変更状況等の反映を踏まえ、今後変更する可能性がある。

※2 レジリエント登録のみの実施件数

【先進医療A】
1年間(令和2年7月1日～令和3年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示 番号	技術名	実施医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和元年7月～令和2年6月ま での実績 (実施可能であるすべての医療 機関の実績)
8	末梢血単核球移植による血管再生治療	三重大学医学部附属病院	患者の病変の状態が比較的安定していたため	今後も患者の病変の様子を注意深く観察していく。	0件
10	培養細胞によるライソゾーム病の診断	大阪市立大学医学部附属病院	該当患者なし		0件
11	培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	島根大学医学部附属病院	適応する患者の発生がなかったため、令和2年7月1日から令和3年6月30日における実績は0件となった。	多施設を含めた取り組みを検討している。	0件
18	糖鎖ナノテクノロジーを用いた高感度ウイルス検査法による感染症診療および院内感染対策支援	鹿児島大学病院	インフルエンザの流行がなく、検査の実施事例がなかったため	今シーズン以降、流行に応じて実施する予定	447件

【先進医療B】
1年間(令和2年7月1日～令和3年6月30日)の実施件数が
0件である先進医療技術に係る医療機関の今後の対応方針等

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和元年7月～令和2年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医療機関の実績)※
1	パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	埼玉医科大学国際医療センター	本試験は既に症例登録期間が終了しているため。	-	0件
3	ペメトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 肺がん(扁平上皮肺がん及び小細胞肺がんを除き、病理学的見地から完全に切除されたと判断されるものに限る。)	静岡県立静岡がんセンター	予定した症例登録が平成28年8月に完了し、現在は観察期間に入っているため。	-	0件
5	NKT細胞を用いた免疫療法 頭頸部扁平上皮がん(診断時のステージがⅣ期であって、初回治療として計画された一連の治療後の完全奏功の判定から八週間以内の症例(当該期間内に他の治療を実施していないものに限る。))に限る。)	千葉大学医学部附属病院	コロナ禍の影響で新規症例組み入れが困難であった。また、医療環境が変化しており、頭頸部癌がんの診断と標準治療が過去の症例と大きく変化してしまったため。	取り下げの申出により、R3. 9. 1告示削除済み	0件
6	C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変に対する自己骨髄細胞投与療法 C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変(Child-Pugh分類による点数が七点以上のもの)であって、従来の治療法(肝移植術を除く。)ではその治療に係る効果が認められないものに限る。)	山口大学医学部附属病院	今般のC型肝炎ウイルスに対する治療法の進歩により、C型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者の絶対的減少とともに、C型非代償性肝硬変患者に対する抗ウイルス治療が承認となったため、本研究の対象患者が減少していることが考えられるため。	取り下げの申出により、R3. 10. 1告示削除済み	0件
7	経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 早期乳がん(長径が一・五センチメートル以下のものに限る。)	国立研究開発法人 国立がん研究センター中央病院	平成29年11月に予定症例数到達により、症例登録を終了したため。	-	0件
9	腹腔鏡下センチネルリンパ節生検 早期胃がん	慶應義塾大学病院	本試験は2020年5月に症例登録期間が終了しているため。	-	45件
14	腹膜偽粘液腫に対する完全減量切除術における術中のマイトマイシンC腹腔内投与及び術後のフルオロウラシル腹腔内投与の併用療法 腹膜偽粘液腫(画像検査により肝転移及びリンパ節転移が認められないもの)であって、放射線治療を行っていないものに限る。)	国立国際医療研究センター病院	2017年2月に予定症例数の75例に達したため、それ以降の新規登録を終了しました。	-	0件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和元年7月～令和2年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
20	骨髄由来間葉系細胞による顎骨再生療法 腫瘍、顎骨骨髓炎、外傷等の疾患による広範囲の顎骨又は歯槽骨欠損(上顎にあっては連続した三分の一額程度以上の顎骨欠損又は上顎洞若しくは鼻腔への交通が認められる顎骨欠損に限り、下顎にあっては連続した三分の一額程度以上の歯槽骨欠損又は下顎区域切除以上の顎骨欠損に限り、歯槽骨欠損にあっては歯周疾患及び加齢による骨吸収を除く。)	名古屋大学医学部附属病院	2022年4月に新規症例の登録を中止したため。	既に登録済みの4例の規定された評価・観察が終了の後、終了することとする。	1件
24	内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術 子宮頸がん(FIGOによる臨床進行期分類がI B期以上及びII B期以下の扁平上皮がん又はFIGOによる臨床進行期分類がI A2期以上及びII B期以下の腺がんであって、リンパ節転移及び腹腔内臓器に転移していないものに限る。)	東京医科大学病院	目標症例数達成により新規患者の登録は終了しているため	取り下げ手続中	5件
31	治療抵抗性の子宮頸がんに対するシスプラチンによる閉鎖循環下骨盤内非均衝灌流療法 子宮頸がん(術後に再発したものであって、同時化学放射線療法に不応かつ手術が不能なものに限る。)	日本医科大学付属病院	2019/1/23に中止となっているため	-	0件
32	ヒドロキシクロロキン療法 関節リウマチ(既存の合成抗リウマチ薬による治療でDAS28が二・六未満を達成できないものに限る。)	慶應義塾大学病院	すでに症例登録を終了し、観察期間およびデータ収集・解析期間に入っていたため。	取り下げの申出により、R3. 10. 1告示削除済み	30件
47	マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがIII期若しくはIV期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	大阪大学医学部附属病院	研究計画通りに登録または追跡が終了し、評価中であったため。	取り下げの申出により、R3. 10. 1告示削除済み	91件
48	腎悪性腫瘍手術により摘出された腎臓を用いた腎移植 末期腎不全(慢性維持透析が困難なものに限る。)	医療法人徳洲会 東京西徳洲会病院	過去4年間のデータにおいて、腎腫瘍に伴う腎摘術の件数は、年平均で1～2件であり、その中から本研究の適格基準に合致した腎臓が確認されないため、0件となっている。5例についてレシピエント登録済みである。	現状のドナー適格基準では、小径腎腫瘍と診断された症例から、かなり絞られた条件に合致する腎臓が対象となるため、適格基準の見直しを企画している。 その他には、まず1例目の実施により世の中に本技術について再度認知してもらう機会を作り、本研究への参加施設を増やすこと、広く認知してもらうことで、該当する症例について他の施設から腎腫瘍疑いの患者さんを紹介していただける流れを作る必要があると考えている。	0件
54	ブロープ型共焦点レーザー顕微内視鏡による胃上皮性病変の診断 胃上皮性病変	国立がん研究センター中央病院	当該先進医療で用いる医療機器の製造販売業務廃止に伴い、国内販売代理店による保守・修理等が中止となったことから、認定倫理審査委員会及び先進医療技術審査部会の承認の上、患者保護の観点から症例登録を一時中断しているため。	関係企業において国内製造販売に向けて調整中である。調整が済み次第、研究計画書等を修正の上、先進医療再開の申請を予定している。	11件

告示番号	技術名	申請医療機関名	0件の理由	医療機関の今後の対応方針	(参考) 令和元年7月～令和2年6月 までの実績 (実施可能であるすべての医 療機関の実績)※
58	糞便微生物叢移植 再発性Clostridioides difficile関連下痢症・腸炎	滋賀医科大学医学部附属病院	新型コロナウイルスに対する感染予防対策がClostridioides difficile腸炎の発症を抑制している可能性がある。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響で病院全体の外来患者数や手術件数が減少していることや、患者側で受診を控える動きがあり、症例登録に至る患者の応募がなかったため。	2020～2021年に協力医療機関3院(藤田医大・金沢大・順天堂大)を追加し、実施体制を拡大している。 また、新型コロナウイルス感染対策として、ドナーに対するPCR検査を実施していることを当病院HPIに記載している。 症例登録を促進する目的で、凍結便を使用した糞便微生物叢移植を可能とする研究計画書の変更を予定している。凍結便が使用可能となれば、利便性が高まることが期待される。また、凍結便の使用はドナー不在(もしくは不適合)の場合の対応が可能となり、迅速な糞便微生物叢移植の実施が期待できる。	0件
64	遺伝子組換え活性化型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法(脳出血(発症から二時間以内のものに限る。))	国立循環器病研究センター	COVID-19感染蔓延による影響で、米国中央事務局をはじめ各国での試験準備進捗が遅れ、試験登録開始に至っていない。具体的には、米国で作成予定のEDCシステムが完成していない。試験薬が輸入されていない。	EDCシステム完成、試験薬輸入の予定が間近であり、2021年9月末からの患者登録を予定している。	-
66	抗腫瘍自己リンパ球移入療法 子宮頸がん(切除が不能と判断されたもの又は術後に再発したものであって、プラチナ製剤に抵抗性を有するものに限る。)	慶應義塾大学病院	本技術で使用するTIL製剤の製造には、1症例の治療のために3人の健康人ボランティアドナーから採取する末梢血単核球(PBMC)を必要とする。このため、患者の治療は原料となるPBMCが確保できずからとなる。6月にPBMCの確保が終了し、患者治療が可能となった。	現時点で、TIL療法を希望する患者の問い合わせは多く、8月だけで5人の面談を予定している。1～2か月以内に治療を開始できると見込んでいる。	-
68	シクロホスファミド静脈内投与療法 成人T細胞白血病(末梢血幹細胞の非血縁者間移植が行われたものに限る。)	国立がん研究センター中央病院	本試験に使用する医薬品の供給問題への対応から、患者登録開始が遅れることになり、本定期報告の対象期間中には本試験の適格となる患者はおりませんでした。現在のところ患者登録にやや難渋している理由として、COVID-19の流行の影響で、骨髄バンクのドナーコーディネーターが通常よりも進みづらいことや、ドナーからの幹細胞採取が急に中止になってしまう可能性を懸念して血縁者間HLA半合致移植や臍帯血移植の施行件数が増加していることが考えられます。	初期3例の安全性評価期間が終了し、本試験の継続について承認が得られましたら、実施医療機関に更に3施設(九州がんセンター、大阪国際がんセンター、今村総合病院)を追加し、患者登録を加速させていきたいと考えております。	-
69	人工内耳植込術 一側性感音難聴(高度又は重度のものに限る。)	国際医療福祉大学三田病院	2021年4月1日より試験開始であったため	7月以降登録あり	-
70	腫瘍治療電場療法 膠芽腫(当該疾病が発症した時点における年齢が十八歳未満の患者に係るものであって、 TENT上に位置するものに限る。)	東京都立小児総合医療センター	2021年4月1日の先進医療告示日後ホームページ等での情報提供によって被験者を募集していた。しかし、非常に希少な疾患であることから、当院への対象患者の受診はなかった。さらに新型コロナウイルス感染症の流行により、入院受入数の制限などが行われ、積極的に他院からの患者リクルートを行う事もできなかった。	新型コロナウイルス感染症の流行状況も勘案しつつ、連携医療機関や対象者への広報を拡大することで、症例登録を促進させる。	-

※「-」は令和2年7月以降に告示された医療技術